

(10)九州



九州地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

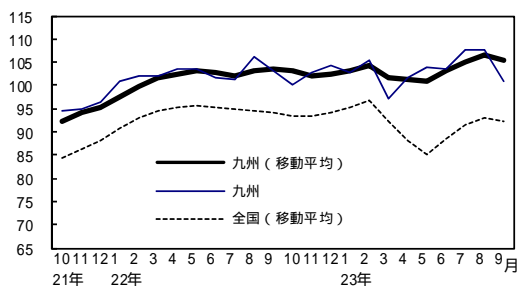
	前回(平成23年8月)	今回(平成23年11月)	
景況判断	緩やかに持ち直し	足踏み状態	
鉱工業生産	緩やかに持ち直し	おおむね横ばい	
個人消費	緩やかに持ち直し	おおむね横ばい	
住宅建設	大幅に増加	増加	
雇用情勢	厳しい状況にあり、持ち直しの動きに一服感	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電子部品・デバイスは、海外経済の低迷に伴う需要の低下から、ロジック等モス型計数回路を中心に減少した。輸送機械は、部材の調達難も解消され、軽・小型自動車を中心に増加している。食料品・たばこは、被災した東北地域の工場の代替生産が一服したことから、ビール及び清涼飲料を中心に減少した。一般機械は、堅調なアジア向け需要を背景に水管ボイラ一等で生産の拡大が続いているものの、市況の悪化から半導体製造装置を中心に減少している。化学は、被災した東北地域の工場の代替生産が一服したことから医薬品が減少したことに加え、市況の悪化からアジア向け樹脂素材の減産が続いている。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子部品・デバイス	15.6	0.9	3.3	5.7	31.9
輸送機械	15.4	9.0	35.0	37.5	17.6
食料品・たばこ	10.6	7.0	6.3	5.7	0.4
一般機械	10.6	15.8	10.3	9.6	32.6
化学	8.2	8.3	5.7	4.1	0.0
鉱工業	100.0	1.3	2.3	6.7	8.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

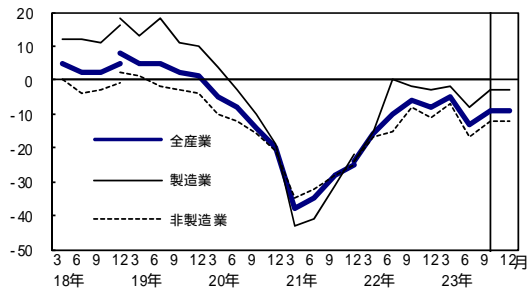
2. 7~9月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

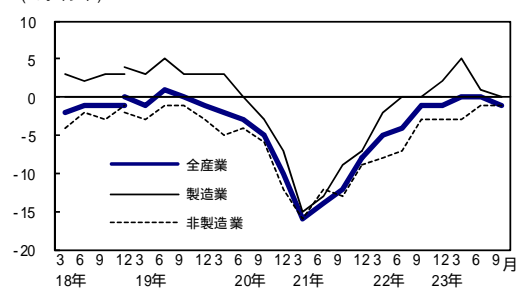
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超に転じている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



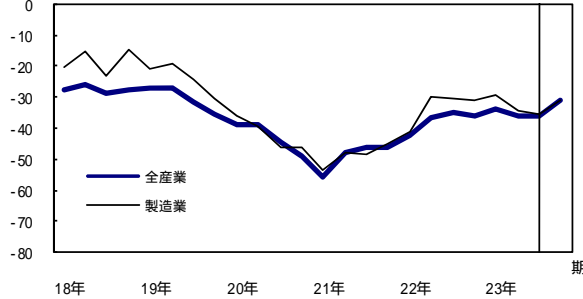
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年12月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「荷物の動きが良くない。東日本大震災や円高の影響があるのか、今一步の状況である(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は、前年度を大幅に下回る計画となっている。

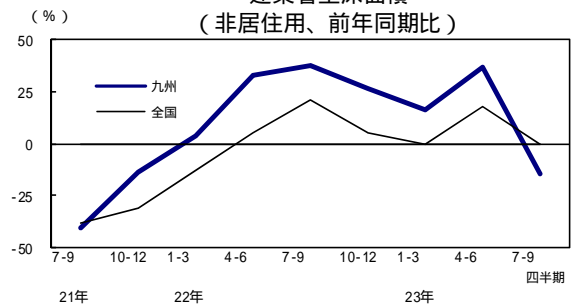
企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	18.8	13.5(0.3)
製造業	25.4	10.8(1.0)
非製造業	15.6	15.0(0.1)

(備考) 1.()は前回(6月)調査比修正率。

2. リース会計対応ベース。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

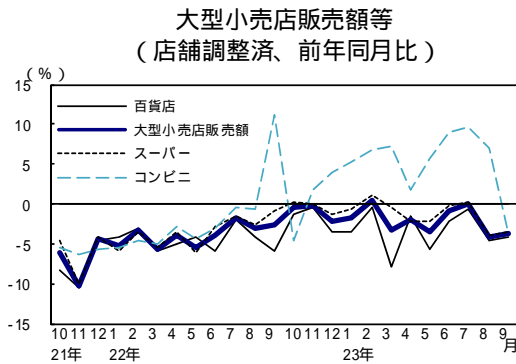
大型小売店販売額は、前年同期比で2.5%減、前期比0.1%減となった。

百貨店は、7月は、例年より早い梅雨明けや気温上昇の影響から衣料品を中心に改善がみられ、競合店開店の影響を受けつつも、前年比減少幅は縮小した。8月は、天候不順の影響から客足が伸び悩み、夏物商材も低調であったことから、前年比減少幅は拡大した。9月は、台風襲来の影響から客足が伸び悩んだものの、下旬以降の気温低下に伴い秋物商材が好調となったことから、前年比減少幅は縮小した。

スーパーは、暑さ対策関連商品や節電対策関連商品が好調であったものの、天候不順の影響から客足が伸び悩み、前年のたばこ特需の反動があったことから、前年比減少幅は拡大した。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「前月は残暑により衣料品を中心に秋物の動きが鈍かったが、今月は冷え込みとともに秋物が動き出している(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	1.0	1.6	2.1	2.5
百貨店(*1)	2.0	4.1	3.3	2.9
スーパー(*1)	0.4	0.0	1.5	2.4
大型小売店(*2)	0.3	0.8	1.7	0.9
(季節調整値)(*3)	(0.6)	(0.5)	(0.9)	(0.1)
乗用車(*4)	26.7	24.9	37.1	19.4
(季節調整値)(*4)	(32.2)	(2.6)	(16.9)	(37.3)

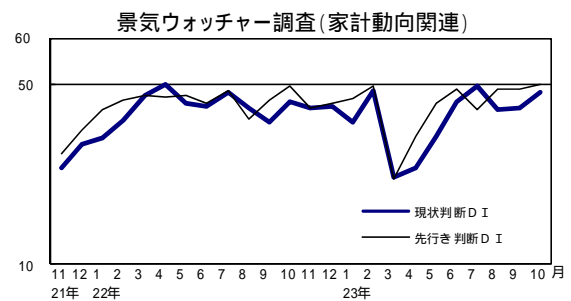
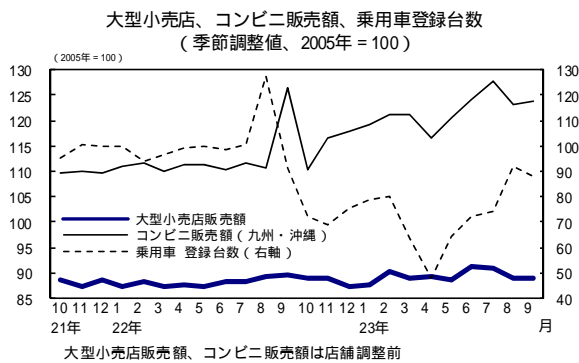
(備考) 1.九州・沖縄地区、店舗調整済、前年同期比(%)

2.九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期比(%)

3.九州・沖縄地区、店舗調整前、前期比(%)

4.乗用車は乗用車新規登録・届出台数。

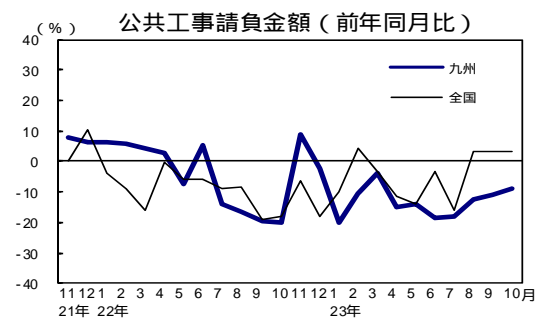
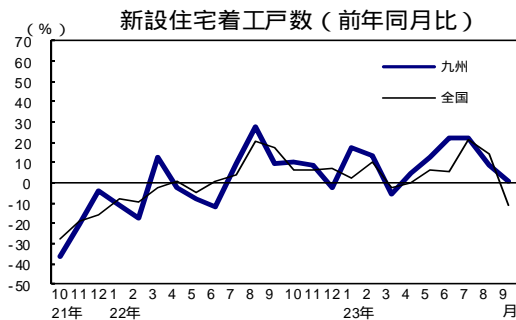
(上段：前年同期比、下段：前期比)



(2) 住宅は増加している。

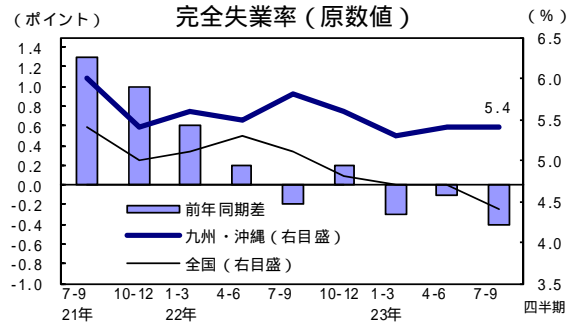
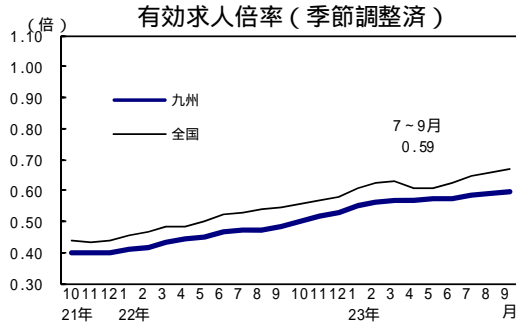
持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。
 有効求人倍率及び完全失業率等
 有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (9月) [雇用関連 (現状)]

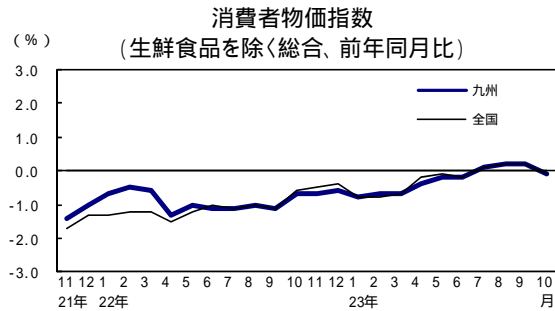
「派遣の依頼が増えているものの、派遣期間が短く値段の交渉も厳しくなっている。また紹介の件数も増えているが、初期の派遣期間の給与よりも社員になった時の給与が低い会社も多い(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばい、負債総額は減少している。

- (3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月	10月
倒産件数	189	186	195	220	68
(前年比)	24.1	13.5	7.1	0.9	15.3
負債総額	481	394	888	411	95
(前年比)	1.0	7.1	242.3	7.6	63.0



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・個人のレジャー需要は、国内から近場の海外へシフトしている。ただし、タイへの旅行は洪水被害により、予約のキャンセルが日増しに増えている(旅行代理店)。

<先行き>

- ・タイの洪水の特需により引き合いが始まっており、来年半ばまで忙しくなる(一般機械器具製造業)。

